

topics

9年ぶりの
大雪に見舞われる

01

1月5日、農業振興課が行った管内の積雪量調査によると、管内平均で大雪となった平成25年と同等の93cmに達したことが分かった。それに伴い、近年には無かったリンゴ樹の雪下ろし作業を行う生産者が多く見られた。

管内の生産者は「近年雪害に悩まされることが無かったことから油断していた。今年はしっかりと樹上の雪を降ろして雪害を軽減するように努めていきたい」と話していた。



積雪による裂開が見られる

topics

年金についての悩み解消

02

1月14日、本所にて年金無料相談会が行われた。

いそす社会保険労務士事務所の五十洲祐樹社会保険労務士が「いつから年金をもらった方がいいのか」「特別な手当はないのか」など受給予定者の相談に答えていた。

担当した職員は「次回の開催も多くの人来て頂き、疑問を解決してもらつとともに、年金受給後に充実した生活を送ってもらえるよう、これからも寄り添っていきたい」と話した。



資料を見ながら相談を受ける組合員

topics

令和4年産も適期防除を

03

1月17日、本所にて相馬村農協りんご共同防除組合連絡協議会が令和4年防除暦編成会議を行い、会員21名が参加した。

はじめに、新規導入予定の薬剤について、メーカーの担当者が使用時の効果や注意点を説明した。次に、今年度の防除暦について農業振興課米澤松太主任が説明をした。三上由紀夫会長は「近年苦慮しているダニなどの害虫予察を徹底し、被害の軽減に努めていきましよう」と今年産リンゴ生産に意気込みを語った。



今年の防除の要点を抑える生産者

topics

農道を除雪し
園地まで快適に

04

当JAでは、冬期に入り3回目の農道除雪作業を行った。昨年同様に比べると1回多く行われており、降雪と降雨を繰り返した農道は、なかなか除雪することが難しい程押し固まっていた。作業員2名は熟練の技術で作業を進めていた。作業を行った沢口義明さんは「今年は雪の量も多く、昨年よりも進むスピードが遅い。でも園地の管理を行う生産者の為に作業を進めていきたい。」と話していた。



狭くなった道を何度も切り返して広くする沢口さん

topics

全国大会に
佐久間さん出場

05

1月19日、ホテル青森にてリモートでの第67回JA全国女性大会が行われた。当初は東京都で行われる予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為にリモートでの開催となった。

同会には、全国からブロック地区大会を勝ち抜いた6名のJA女性部が参加し、その発表を見ようと1370人が視聴した。

当管内からは、青森県大会、北海道・東北地区大会を勝ち抜いた五所地区の佐久間結華里さんが発表を行った。

発表者は、それぞれ地域活性化を図る取組について発表し、視聴者を惹きつけていた。

参加した佐久間さんは「全国大会にまで進めることは思っていなかった。出場した以上、女性部の取組と相馬地区をしつかりアピールしたいと思ってこの大会に望みました。」と感想を述べた。



リモートでも発表の熱が伝わる



「相馬だいきガールズ発掘大作戦」と題して発表した

topics

工事中の安全を祈願

06

1月20日、新ライスセンターの建設工事安全祈願祭が行われ、大場組組合長をはじめ、桜田宏弘前市長等関係者30名が出席した。

式では玉串奉奠等の神事を行い、新ライスセンターの建設工事が無事に終える事を祈った。

大場組組合長は「例年に比べ雪の多い建設工事である事から、上手く進まない部分も予想されるが、何事もなく無事に完成するように努めていきたい。」と話した。



玉串奉奠を行う大場組組合長

topics

選果機で
機能性リンゴ品質試験

07

1月24日、フルーツステーションにてリンゴが機能性表示食品としてプロシアニジンがどのくらい含まれているかを、選果機で特定できるのか試験を行い、様々な等級のふじ200個を調査した。

今回の試験を見守った弘前大学の三浦富智教授は「相馬地区のような高低差のある場所で採れたリンゴだどのような数値が出るのかが楽しみだ。まずは選果機でプロシアニジンの含有量を判明出来る様、模索していきたい」と意気込んでいた。



様々なリンゴのサンプリングを行う三浦教授(写真右)